

会 議 録

会議名	令和3年度 第3回 丸亀市総合計画審議会
開催日時	令和3年11月22日(月) 15:30~17:30
開催場所	オンライン会議
出席者	<p>出席委員 逢坂十美、原真志、村井花子、相原しのぶ、岩崎正朔、岡敏子、島田理加、野田昌己、柳口華織、三谷豊明、三谷洋勝、白取陽介、大平侑妃莉、田中大智</p> <p>欠席委員 高濱和則、佐伯モカ</p> <p>事務局 (市長公室秘書政策課) 課長 窪田徹也、副課長 谷本智子、担当長 宇野大志郎、主任 大川智</p>
議 題	<p>1. 第二次総合計画後期基本計画(案)について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今から、第3回丸亀市総合計画審議会を開会します。議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。以後、会長に進行をお願いいたします。
原会長	それでは、私の方で進めさせていただきます。まず、議事の1. 第二次丸亀市総合計画後期基本計画(案)について事務局より説明をお願いします。
宇野	<資料に基づき説明>
三谷(洋)委員	新市長の公約の中で、「創高種(そうこうしゅ)」がアピールされており、それぞれ、「創」は公園の整備、「高」は高齢者へのお祝いや配慮、「種」は人材育成や子育てを意味するものと理解しています。計画中に市長方針が10項目掲げられている中で、高齢者に対する内容が入っていませんが、どのように考えていますか。
宇野	高齢者に関しての内容は、市長方針の「⑦人を敬い誰もがいつまでも幸せに暮らせるまちをつくる」に包含されているものをご理解いただければと思います。具体的には、この市長方針を踏まえ、基本施策18の高齢者福祉の充実をまとめており、特に重点プロジェクト「在宅老人福祉サービス」では、敬老事業などの取組を記載しています。
原会長	こちらの市長方針に高齢者というキーワードが出されておらず、包含する表現となっていることを良しとするかどうかという観点かと思います。
窪田課長	常々市長の方からは、高齢者も含めて人を敬う気持ちを大切に取組を進めるよう指

岡委員	<p>示を受けており、市長自身も高齢者の祝金や敬老行事などについて、見直す方針を示しています。そのため、高齢者の方たちを重要視していないという考えは市長にはありませんので、補足させていただきます。</p> <p>私どもの方で、重点プロジェクトの「まる育サポート」と「発達障がい児支援事業」について、丸亀市との協働により取り組んでいます。まず、まる育サポートの実態として、今年度より、臨床心理士などの専門家を半日常勤というかたちで、いつでも相談を受けられる体制を整えています。10月末の時点で昨年度の402件を上回り、537件の相談を受けています。予想以上の相談数の増加に対して、14名の専門相談員の体制でもいっぱい状態の状態で、合わせて、8月からひまわりセンターに場所を移しましたが、相談者のプライバシーを確保しながら相談室を回すことにも苦心している状況です。発達障がい児支援事業についてもニーズが高く、目標値に対して、環境整備や人材の確保が伴わないと達成が難しいと思うので、その対策も検討していただきたいと思います。</p> <p>また、子どもの貧困対策では、どういった取組が有効であるか、評価が難しいところです。担当課や社会福祉協議会など、現状を良く知っている関係者と検討された上での成果指標として設定していますか。</p>
宇野	<p>まる育サポートと発達障がい児支援事業に関しまして、現場の状況が追い付いていないということになりますと、目標として掲げている相談の充実につながりませんので、担当課とも協議し、改善できるよう進めてまいりたいと思います。</p> <p>子どもの貧困対策では、家庭でも学校でもない、子どもにとっての居場所づくりが大切だと言われています。成果指標では、子ども食堂を実施する団体への支援のほか、既に日本財団の協力を得て実施している「第3の居場所事業」について、市としても支援していく方向で設定しています。</p>
原会長	<p>1点目に関しましては、人材の確保やプライバシーにも配慮した環境づくりが必要となりますので、そうした方向性で検討していただきたいと思います。</p>
三谷(洋)委員	<p>今、国の方でもコロナ対策等で、国民の命と暮らしを守るというメッセージのもと、数兆円の補正予算が検討されています。市も市民の暮らしと命を守る立場にありますが、特に南海トラフ地震への備えが大切です。先日、自治会でコミュニティの防災担当の方から話がありましたが、大規模災害では行政もすぐには身動きが取れないことが想定されるため、自分の身は自分で守るということの重要性を強調されました。災害後の数日間の生活を自ら守る対策、また、災害に強い都市基盤の整備も含めて、総合計画の中でも重点的に進めて欲しいと思います。</p> <p>ある人から見たら用心深いと言われるのかも知れませんが、私は数日分の水や乾パンなど災害対応用品を準備しております。</p>
宇野	<p>三谷委員は備蓄物資をご自身で準備されているということで、そうした自助意識の</p>

	<p>高い市民が一人でも多く増えていくように、行政としても啓発活動や地域での防災訓練の支援などを行っています。ハードに関しましても、水道や下水道などのインフラについて耐震化を計画的に進め、災害に強いまちづくりを目指しています。</p>
相原委員	<p>重点プロジェクトと成果指標を紐づけることが、今回の計画の改善点だと思いますが、重点プロジェクト以外の「その他の施策」に関しては、成果指標などはありません。この計画を推進する中で、どのような振り返りをしていくのでしょうか。</p>
宇野	<p>その他の施策も含めて、市の予算事業は基本的に総合計画に基づいています。その予算事業の決算の状況を、毎年市議会に示し、総合計画の成果指標の状況なども合わせて報告し、審議をいただきながら、より良い施策の展開につなげています。</p>
三谷(豊)委員	<p>計画書の内容が難しい部分もありますので、計画書を発刊する際には、特に教育、防災、観光関連などについて、高齢者や若い世代の方でも分かりやすい情報提供の仕方をお願いできればと思います。</p>
三谷(洋)委員	<p>総合計画ということで、あらゆる分野について前向きな記載がされていますが、行政を現実的に進めていくには、人・物・金が必要です。ただ、人や金、つまり市の職員や予算には限度がありますので、市政の推進にあたっては、基本施策 28 にある市民参画と協働の推進が非常に重要です。協働の推進については、積極的に推進しますというくらい力強く表現すべきだと思います。</p>
宇野	<p>市としましても、三谷委員のご意見のとおり、協働については積極的な思いがあり、計画書の第4部「計画の推進」の第1章において、「協創と協働によるまちづくり」として頭出しをして整理しています。いずれの施策においても、基本的な要素として取組を進めていくよう、職員の中でも意識の統一を図っているところです。</p> <p>そうした中で、新しく完成した市民交流活動センター（マルタス）を活用して市民活動登録数を増やす、あるいは、地域コミュニティの活性化では、地域の方々とともにまちづくりを進めていくことを掲げており、さらに、大学等の教育機関や民間企業などの多様な主体との連携も含めて、地域課題の解決を図っていく考えを計画書の施策の展開の中でお示ししています。</p>
逢坂委員	<p>市民アンケート結果の中で、子育てがしやすいという項目の数値が低いのが気になります。市として、どのような課題があると考えていますか。</p>
窪田課長	<p>市としましても、丸亀市の魅力に感じる点について、子育てしやすいという項目が10%を切っていることを非常に残念に思っています。これまでも子育て支援では様々な施策を講じ、相談体制も充実させてきておりますが、別の項目に得票の結果が出て評価が得られなかったものとなっています。この結果の分析には値しないかもしれませんが、他自治体の子育て支援策にも十分にアンテナを張って、タイミングを逃すこ</p>

	となく、施策を展開していければと考えています。
原会長	子育てに関する評価が低いのは確かに問題です。子育て世代の意見がアンケートとしてある程度ボリュームがとれているかどうか、また、現状の市の取組との間にギャップがあるのかもしれませんが、しっかりと調査してみても良いと思います。
逢坂委員	若い世代の方たちの意見を聞く未来ミーティングの話がありましたが、学生などは子育てまでは経験しておりませんので、そうした場に当事者の子育て世代にも入っていただければ、数値が低い理由なども分かるのではないのでしょうか。
宇野	総合計画のアンケートでは子育て世代に関する詳しいデータは取り上げておりませんが、担当課の個別計画であるこども未来計画は、詳細なデータを踏まえた内容となっており、総合計画もその個別計画を参酌して施策を取りまとめています。
原会長	課題と施策がどうつながっているか、もう少し分かりやすくなると議論しやすいと思います。こども未来計画で検討されて上がっている課題として、今分かるものはありますか。
窪田課長	例えば、こども未来計画でも位置付けられている待機児童の解消という大きな課題に対して、総合計画においても重点プロジェクトとして掲げています。その課題に対して、保育士の確保に向けた修学資金や就職準備金の貸付などの具体的な取組を示し、指標として待機児童数の経過を見ていくというものでございます。
原会長	逢坂委員のご意見の趣旨としては、市が把握している内容について、子育て世代が困っている課題をきちんと吸い上げられているかどうかという観点かと思います。この点に関しまして、先ほど岡委員からまる育サポートの現場に関するご意見をいただきましたが、何かお気づきの点などございませんか。
岡委員	保育士確保の件に関しては、就職したものの、やはりしんどいと感じる方も多いですが、そのあたりは担当の幼保運営課がフォローし、相談できる体制が整っています。また、丸亀市独自の取組として発達障がい児支援事業を行っていますが、この取組で助かっている保護者もたくさんいます。せつかくの独自の良い取組が、子育て世代にうまく伝えられていないのではないかと感じます。子育てに忙しく、アンケートにきちんと答えられていないという部分もあるかと思います。
原会長	周知が課題ということですが、この点を工夫すれば、市の努力とアンケート評価のギャップの解消にもつながるのではないかと思います。
村井委員	私どもの学校の学生が、空家を活用して子ども食堂を運営する取組を実施しましたが、事前に調査する際に、子ども食堂の情報がなかなか得られませんでした。学生だ

窪田課長	<p>と、以前はツイッター、今はインスタグラムを結構使うようなので、いろんな場面で情報をキャッチできるようにしていただければと思います。</p> <p>私どもも市の取組がしっかりと伝わるように情報発信しなければならないと考えています。紙媒体だけでなく、SNSなどそれぞれの世代の特徴に応じた様々な媒体を活用することで、情報を必要としている人たちに届くような情報発信に努めてまいります。</p>
三谷(洋)委員	<p>在宅老人福祉サービスの充実に関する成果指標「元気な高齢者の割合」について、基準値の83.4%に対して目標値は80.9%と下がっていますが、表現の補足など工夫が必要かと思います。</p>
宇野	<p>今後高齢者が増加する中で、この数値に留めるという目標となりますが、分かりにくい印象がありますので、指標の説明で表現を検討します。</p>
三谷(豊)委員	<p>空家対策に関して、除却件数を成果指標としていますが、空家を発生させないようにどうケアしていくのが重要です。市民の中に、市が補助してくれるという感覚自体が広がることも問題ですし、財政的な影響も大きいので成果指標から外すべきとも考えます。</p>
宇野	<p>空家対策では条例に基づく空家対策計画を策定しており、生活環境の面で悪影響が大きい空家に関して、公的な資金を投入して除却を進め、改善を図っています。成果指標については年間50件程度を目標としており、生活環境の改善の他にも、更地になった後に新しい物件ができるなど良い面も表れています。</p>
原会長	<p>空家については、リノベーションして活用できるものや、手遅れでどうしようもないものなど、物件によって様々な段階があります。空家の数の規模や除却の必要なものの状況などが明確になると、目標値の累計450件が納得できるかと思います。</p>
三谷(豊)委員	<p>不動産のことなどが分かっていない場合には、除却件数が多く、おかしいと感じる市民の方もいるのではないかと懸念しています。</p>
窪田課長	<p>ここ数年の環境変化の一つとして、空家の増加が行政課題となっている状況があります。そうした中で、所有者の意向に沿って除却への支援を行い、空家を抑制する取組を進めています。目標値の450件については、2015年度からの累計で2020年度までで200件、次の5年間でプラス250件という計画で、特段どんどん空家を除却していくという考えがあるわけではなく、こうした除却による空家対策についても、これまでと同じようなペースで進め、丸亀市の住環境と一緒に良くしていきたいというメッセージとして捉えていただければと思います。</p>

柳口委員	<p>子育てに関して、保護者は食に対して敏感な一面があるかと思います。地産地消の取組もあるようですが、給食では有機食材や無農薬食材を使っただけなら良いと思います。市内では、オーガニック給食の署名活動もあるようですし、保護者の要望もあると感じています。また、農業が元気なまちづくりを目指すともありますので、そうした観点からも有機農業などを検討していただきたいと思います。</p>
窪田課長	<p>農業に関しては、生産基盤や後継者、また、農業を発展的に進めていくための6次産業化の推進などを重点プロジェクトとして掲げており、これらの取組を推進するうえで、有機栽培などにより農産物の価値を向上させるような生産方法なども一つの手法として取り組む必要があると考えています。スマート農業といった先進技術を活用した取組と合わせて、農家の方たちの経営方針の一つとして加えていただけるような支援に努めてまいります。</p>
原会長	<p>いくつかの施策をつなげる取組は大事です。有機農業を価値のあるものと理解していても、生産者側からすれば本当に買ってくれるのか不安になるわけで、それだったら学校給食で買うという受け止めがあれば、農業者も新しい取組に参入しやすいといった面もありますので、市が旗を振って双方が良くなる取組を進めてもらえたらと思います。</p> <p>その他、ご意見もないようですので、議事の「その他」として事務局より何かございますか。</p>
宇野	<p>今後の予定ですが、本日いただいた意見をもとに修正を加えた計画書（案）を12月に市議会の方へ説明します。その後、年明けにパブリックコメントを行い、2月頃にあらためてこちらの審議会を開催し、最終の計画書と答申書の案をご確認いただき、3月に計画決定という流れで進めていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。</p>
原会長	<p>本日は、非常にたくさんの多様な意見をいただき、ありがとうございました。それでは、以上で本日の会議を終了いたします。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>